

年 月 日 /

学校 年 組 番 なまえ

2024年12月5日付

19歳バス運転手誕生

県内初となる19歳のバス運転手、高阿田諒太さん＝水戸市でデビューした。大型バスの運転に慣れて昨年、東京から茨城交通（同市）に入社。改正道交法の大型二種免許の取得条件が緩和された制度を利用し、教習と訓練を経て単独の運行業務を始めた。県内は運転手不足による減便が深刻化し、同社も若きドライバーの誕生に期待を寄せる。高阿田さんは「経験を積み、より大型のバスに乗れるようになりたい」と向上心を見せる。

茨城交通・高阿田さん

■道交法改正

高阿田さんは都内の工業高校卒業。バスと鉄道に乗るのが好きで、中学3年でバス運転手を志した。親族が水戸市に住む縁があり、都内では見つけづらい古き良きバス車両がある同社に関心を高めた。昨年4月に入社し、まず営業所の事務員として勤務した。バスの運転に必要な大型二種の取得は従来、21歳以上で普通免許の取得から3年が必要だった。しかし2022年の道交法改正により、特例教

習を修了すると19歳以上、普通免許取得後1年で資格を得られるようになった。高阿田さんは今年7月に教習に入り、9月に学科試験を合格。さらに実車での訓練を経て、11月27日にデビューした。

■人材確保へ

県内はバスの運転手不足が深刻化している。県バス協会が今年6月に県議会特別委員会ですした資料によると、県内バス事業者の運転手数は、19年度の2481人が22年度には2184人に落ち込み、

県内初 地域の足、担い手に



出発前に自らが担当する車両の運転席に座る高阿田諒太さん＝水戸市袴塚

3年で約12%減少した。コロナ禍で各事業者とも路線バスの赤字が拡大、黒字の高速バスなどへ人員の重点を移さざるを得なかった。同社も23年から24年にかけて約15%の減便を強いられた。同社は人材確保の打開策として、2015年4月から運転手を目指す高校新卒者を養成員として採用。特例教習と大型二種教習の費用を会社負担とした。

4日、水戸市内で路線バスを走らせた高阿田さん。「入社するまで若い運転手を意識してなかったが、これから増えてくれるとうれしい」と前を見据えた。（小島慧介）

■「孫のよう」

担とした。

世代の離れた職場の同僚たちから、高阿田さんは「孫のよう」と迎えられるといい、「みんなフレンドリーで、毎日何かしら話題がある」と笑顔を見せた。同社の人事担当課長、山内隆之さんは「進む運転手の高齢化を大きく覆すことができる人材」と期待する。

【問1】 19歳でバス運転手となれたのは？

【問2】 県内のバス運転手の変容は？

【問3】 コロナ禍で事業者が行った路線バスでの赤字対策は？



よ
読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね